

平成14年度(社)日本地すべり学会東北支部 第18回総会・特別講演・地すべり発表討論会

(株)テクノ長谷 加藤 彰

平成14年5月24日午後1:00から、仙台市青葉区にある東北学院大学土樋キャンパス81年館632教室において、平成14年度(社)日本地すべり学会東北支部第18回総会・特別講演・地すべり発表討論会が開催された。

平成14年度(社)日本地すべり学会東北支部第18回総会

盛合禱夫支部長の挨拶に始まり、平成13年度事業報告、収支決算報告、平成14年度事業計画(案)、収支予算(案)、平成14・15年度役員改選、その他の6項目からなる議事が進められた。

この中で平成14・15年度役員改選について、満場一致で以下のとおり決定された。

- 顧問：盛合 禱夫
(東北工業大学名誉教授)
- 支部長：宮城 豊彦
(東北学院大学教授)
- 副支部長：橋本 潔
(宮城県砂防水資源課課長)
- 〃：阿部 真郎
(奥山ボーリング(株))
- 幹事長：千葉 則行
(東北工業大学助教授)
- 副幹事長：山崎 孝成
(国土防災技術(株))



盛合顧問



宮城支部長

特別講演

宮城県砂防水資源課課長 橋本 潔氏
演題『土砂災害等防止法(新法)の考え方
と宮城県の取り組み方』

[講演要旨]

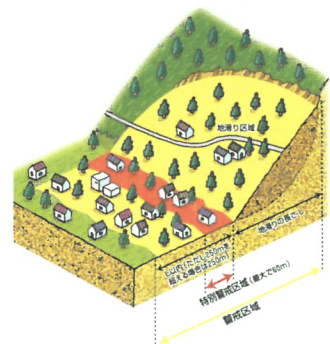
土砂災害等防止法(新法)は、平成13年3月30日に平成13年国土交通省令第85号として、「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律施工規定」が制定され、同4月1日に施工された。



講演中の橋本潔氏

土砂災害等防止法とは、土砂災害から国民の生命を守るため、土砂災害の恐れのある区域についての危険の周知、警戒避難体制の整備、住宅等の新規立地の抑制、既存住宅の移転促進等のソフト対策を推進しようとするものである。

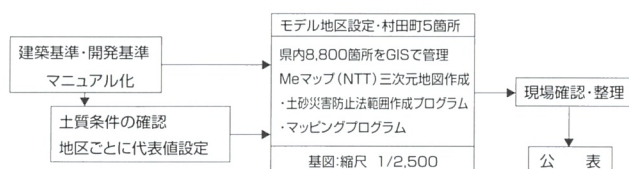
これを受けて都道府県が、溪流や斜面及びその下流など土砂災害により被害の受ける恐れのある区域の地形、地質、土地利用状況等について調査し(基礎調査)、それに基づいて土砂災害警戒区域(イエローゾーン)、特別警戒区域(レッドゾーン)を指定する。



地すべりタイプの土砂災害警戒区域

土砂災害警戒区域は、◎急傾斜地の崩壊◎土石流◎地滑りの3タイプに区分して調査・指定される。

現在、宮城県には8,800箇所の該当地があり、土砂災害等防止法に向けた取り組みとして以下の手順が示された。



地すべり発表討論会 『写真判読はどこまで地すべり危険度評価ができるか！』

上記テーマについて以下の4題の発表がなされた。

一、写真判読による地すべり危険度評価の考え方と着眼点 宮城豊彦・今野政和

二、危険度評価の統計分析手法について 濱崎英作・戸来佐竹

三、第三系分布域の地すべり地形危険度評価の検討事例 千葉則行

四、レーザースキャナによる地形図とオルソフォトの紹介 山崎孝成

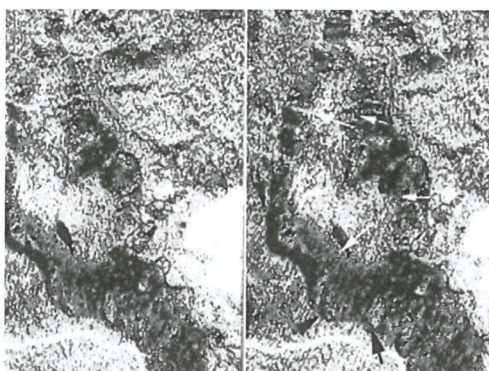
[発表討論会要旨]

地すべり地形は、その微地形によって運動特性、再活動の危険性が異なり、地すべり地形が明瞭なほど活動的であり、先行した活動や地形場が再活動の危険性や様式に影響する。これらの視点は、「運動特性に関する指標」「経過時間に関する指標」「地形場と先行地すべりに関

する指標」の三つの要素に集約される。したがって、これら三つの要素からなる詳細カルテを作成し、その事例を集積して再評価を行い、詳細危険度評価の指針と評価法マニュアルを作成し、評価軸の洗練化・単純化・客観化を行い、最終カルテに到達させる。

これら一連の危険度評価プロセスの中で、写真判読の役割すなわち上記三つの要素について、代表的な空中写真の事例をもとに会場で実体視を行い、解説がなされた。

本学会では初めて、参加者全員にハンディー実体視鏡が配られ、発表を聞きながら実体視を体験する手法が採用され、その功あつてか居眠りする参加者は一人もみられなかった。



サンプル写真と熱心に判読する参加者

上記で作成された詳細カルテに対し、判断基準を数値化できる統計的手法、ここではAHP法(階層的意思決定法)により、複数の写真判読によるカルテを標準化し、危険度の基準について整理・修正を行っている。

地すべり学会本部においては、第三系分布域の地すべり地形危険度評価の検討を実施しており、AHP法、多変量解析などを用いて、地すべり危険度評価の指標作成を試みている段階にあり、その概要が発表された。

最後に、最近の地形図作成手法として注目されているレーザースキャナとオルソフォトの紹介があり、樹木の影響による写真判読の障害が解消され、3D表現

による実態地形図の作成など、将来の地すべり地形解析への応用性が示された。

以上、きわめて中身の濃い発表の後、メインテーマや各発表テーマに対する活発な討論が行われた。

地すべり危険度判定に対する写真判読の重要性は従来から指摘されているが、写真判読のみで、「何が」「どこまで」できるかが議論される機会は少ない。本発表討論会では、写真判読の具体的な位置づけや、将来への大きな可能性を参加者全員に理解していただけたと思われる。なお、壮大なメインテーマに対する直接的な質問がなかったのは、我々主催者として半ば安心、半ば残念・・・でもありました。

意見交流会

当日午後6時からホテルメトロポリタンにおいて、恒例の意見交流会が行われた。

盛合支部長退任の挨拶と宮城新支部長の挨拶から始まり、終始和やかな中で意見交流が行われ、東北支部の健在ぶりが示された。

